

進路説明会のまとめ

先月の24日の一年生をもって秋の進路説明会を終了しました。各学年とも多くの保護者の皆様にご参加いただき感謝申し上げます。さて各学年の内容をもう一度紙面上で整理しておきます。

【3年生「成長する力を信じて」】

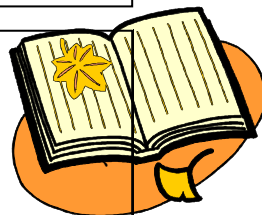
これからが3年生の最も伸びる時期である。模擬試験で最後までE判定しか取れなかったけれど見事本番で目標を達成した先輩も沢山いる。3年生がこの時期伸びる理由は以下の通り。①部活動、生徒会、文化祭が終わり勉強に打ち込める。②理科、社会は授業で習う範囲が終わり、問題演習に入るため苦手分野の克服がし易くなる。③推薦入試の合否判定が出て来るとと受検生としての意識が芽生えてくるようになる。④浪人生は伸びが鈍化してくる。一方、不安や焦りを感じる生徒も多くなるが、仲間との励ましあいや保護者や教師の支援の中で各々の困難を乗り越えていく。この過程が自立への第一歩である。

【2年生「安売りしない人生設計」】

人生設計においてPDCAのサイクルを考えてみよう。P(Plan)は進路計画を立てること。文系か理系か、学部・学科・専攻はどうするか、どんな職業に就きたいかなど。D(Do)とC(Check)は「進路検証」。試してみないと計画が良いかどうかはわからない。しかも受身的なお試しは効果半減。ゼミや模擬授業に積極的に参加することが大切。この過程を怠ると、ミスマッチのために進学先で後悔して進路変更しなければならなくなる。現在大学生の中退率は8.1%というが、私立・専門学校になるとその割合は高くなる。2年生で検証を確実に実施して、2年後期からの受験対策：A(Action)に臨んで欲しい。

【1年生「自ら選び取れる人生を目指して」】

人生には様々な選択の機会がある。受験、就職、結婚、出産、子育て、介護、治療等々。現代はその選択肢が以前に比べて飛躍的に増大し選択が難しくなってきた。また、選択結果に満足できず選択を他人任せにしたり、選択を先延ばしにしようという人が増えてきた。しかし、選択を避けては豊かな人生はあり得ない。長い目で見た場合には失敗だったと思える選択でも成功につながることもある。また人生はやり直しがきく。重要なことは、失敗と成功を繰り返す中で自分の好みや能力などの傾向がわかっていくという事実だ。選択はアイデンティティの確立という青年期の課題のための大切な手段なのだ。
「わたしは自分が何者かを知るために選択をするのだ」(シーナ=アイエンガー) (文責：今井雅)



『1年の窓』 進研模試の復習をしよう

難しい問題に苦勞した進研模試が終わりました。学校で自己採点をしたあと、自宅でも解答冊子を開いていますか？なんとなく解説を読むだけでは次も同じような結果になるだけ…今回は復習方法のヒントです。

国語→古文、漢文の現代語訳を書き出し、読み解けなかったところを理解する。さらに、間違えた問題の解説や要点を書きまとめる。

数学→間違えた問題を解きなおす。それでもわからない問題は模範解答を書き写し、出てきた公式を覚えなおす。

英語→徹底的な単語調べで語彙力を上げる。問題に出てきた単語について、発音、アクセント、反意語などをとことん調べて暗記しよう。本文の内容と一緒に記憶に残れば暗記の効率も上がる。

復習こそが成長の鍵！(文責 谷)

『2年の窓』

(文責 竹腰)

「10月11月は進路を考える時」という話を進路や集会などを通してみなさんに話してきました。先輩を語る会からスタートし、懇談、進路説明会、進路講演会、そして初の5教科受験した進研模試。残るはミックスLHRと学部学科講話です。受験開始の2年冬が、もう目の前に迫っています。将来の進む方向性を深く考えつつ、学力を伸ばすために復習を積極的に行っているでしょうか？

さて、先日の進路アンケートの質問欄に「どのように勉強を取り組んだらいいのか」という勉強方法に関する質問が複数ありました。学年の先生方が学年通信やミックスLHRを通して皆さんに方法を伝えて下さいますが、私が提案する方法は、まずは毎日1時間以上の復習時間を確保すること。学習した内容について時間を開けてから定期的に何度も復習すること。暗記の前に理解をすること。学習をしたことより「何ができるようになったか」を大切にすることです。

『3年の窓』 (今回は1、2年生にも読んで欲しい内容です)

今年も推薦入試の季節がやってきました。私立大学では①「早めに一定数の学生を確保すること」、②「残り的人数枠を小さくして受かりにくい大学(=レベル高い)と思わせる印象操作」のため推薦入試等で先に多く的人数を合格させるところが増えつつあります。本校も私大の推薦入試を受験する人が増えています。それに伴い残りの人達に焦りや不安が生じ、「僕も私も推薦で」という、流行か恐慌か何とも形容しがたい嵐が発生するのですが、「推薦入試の方が楽」というのは幻想です。推薦だからこそ合格出来た人はいますが、その逆も絶対あります。

大学入試を野球チームの入団テストに置き換えて考えてみましょう。多くの入団希望者を一気に絞り込むため、走力と遠投力で振り分けを測ったとします。するとイチローのような選手は生き残りますが、巨漢肥満型の選手はまず走力で落とされます。そんな彼らが「待ってくれ！俺は走れないけど打撃なら負けないんだ！」と、テスト種目外の特技で将来性をアピールするのが推薦入試です。その訴えが認められ、その力が本物なら彼はきっと特例措置で入団出来るでしょう。でも、これが「待ってくれ！俺は麻雀王なんだ！」とアピールしていたら、「ハイ、お帰りください」とバッサリですね。何でも評価されるわけではなくチームが欲しがっているのかが問題です。

大学に「欲しい」と思わせる人材でなくては、どんな入試でも合格はしません。周りに振り回されず、しっかり自分を見つめて自分自身の持っている力・可能性と向き合い、磨いて下さい。そして最も自分に向いた方法でアピールすれば良いのです。来る決戦の日まで、自分を磨き続けて下さい。必ず今より光ります。(文責：鈴木 貴博)

○文系の窓○ 学部学科研究

今月は外国語学部英米学科と文学部英米学科について考えてみましょう。ある大学の例です。

【国際コミュニケーション学部英語学科】

英語学科では、国際共通語である英語について「読む・聞く・書く・話す」力を段階的に伸ばし、総合的な英語運用能力を身につけることを第一にめざします。その上で英語圏の文化・社会・思想などについても英語を用いて理解を深め、国際社会において世界の人々と対等に渡り合えるコミュニケーション能力の修得をめざしています。以下略。

【文学部英文学科】

今や世界の共通語としての地位を確立し、多くの国で使われている英語ですが、現在の姿になるまでには長い時間を要しました。(中略)。英語でコミュニケーションする能力を育てるとともに、独自の変化を遂げた英語(インドやシンガポールなどの英語)や英語圏の文化・文学も研究対象にしています。標準的な英語だけでなく、世界各地で発展した多彩な英語にも触れることで、英語の多様性とそれを生み出した英語圏文化を知り、世界中の人々とコミュニケーションできる能力を養って、グローバル社会で活躍できる人材を育てます。

英語を学問の対象として学ぶのかツールとして学ぶのか。アプローチの仕方の違いだと考えることができます。そうはいつでもはっきりとした違いはわかりにくいものです。大学ごとに個性があり、オープンキャンパスに参加したり、大学案内等でよく調べる必要があります。

(文責 大島)

○理系の窓○

(文責: 渡部里)

国際学生対抗バーチャルリアリティコンテストという大会を知っていますか?今年の予選大会は名古屋大学で開催され、全国から学生が集まりました。日本の学生の「バーチャルリアリティ力」は世界に誇る高さなのだそう。現在原稿を書いている段階では優勝チームが決まっていないけれど、ちょうどこの週末(10月26日)に決定します。例えば、「ロボコン」と聞けばどんな大会かすぐにイメージができる人が多いと思います。東海地区からは岐阜大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学(優勝!)が出場しました。ではバーチャルリアリティコンテストって?そもそもバーチャルリアリティって?わかりやすくいうと、「実際は体験していないのに、体験しているかのような効果を与える」こと。映画やゲームによく登場しますね。このコンテスト、学生達がユニークな作品を出展しています。名城大学も出展しています。名城大学は「剥がす」がテーマ。ありえないものを剥がす体験がバーチャルの世界で体感できる作品。何かを剥がすときの快感から思いついたテーマらしい。大阪大学大学院の出展は綱渡り体験ができる、というもの。大学生ならではのユニークな発想、そしてそれを実際に作ることができてしまう技術力に驚かされました。興味がある人、自分もやってみたい!という人は大学で学んでみたらどうでしょうか。チェックするのは情報工学系の学科です。

☑総合学習の扉☑

第5回 総合学習の扉の中へ

今回の総合学習では、文系のゼミで行われた内容をいくつか紹介していこうと思います。私(波勢)が担当している教育・心理ゼミではそれぞれが何をテーマとして研究していくのかを、3分間プレゼンテーションしてもらいました。教育専攻の多くは、先輩と語る会からいただいたアドバイスを参考に、「授業力」をテーマに設定している生徒が多くいました。心理では、夢や色、しぐさ、くせ、などと各自が興味・感心のあることをテーマと設定し、研究を進めていくようです。アンケート調査を考える生徒もいて、すでに幾度か私と話し合いを行い実施できるように準備を進めている生徒もいます。もしアンケートを依頼されたときは、ご協力お願いします。

この他にも、看護ゼミでは10月27日に公立春日井小牧看護専門学校の渡辺先生に來校していただき、お互いの脈をはかったり、実際の聴診器を使い相手や自分の心音を聞いたりなどの体験的な学習をしたゼミもあります。渡辺先生にはもう一度來校していただき、講義を受けることになっています。また、法・経・社のゼミでは、テーマパークの再建方法を4つの選択肢から1つ選び、理由を含めて発表できるように班で話し合いをしたこともあるようです。

今回は、理系の学習内容について紹介したいと思います。



↑体験授業風景
(文責 波勢)

○Book Review○

『勉強の結果は「机に向かう前」に決まる』池田 潤(サンマーク出版)

「勉強しているけど結果がでない」という相談を度々受けます。その時、2つのことを尋ねます。1つ目は「1日どれくらい家庭学習をしているのか」、2つ目は「家庭学習をどのような方法で行っているか」です。1つ目に該当する人には、家庭学習を生活時間のどこに入れるかを話し合います。当たり前ですが、結果を望むのであれば、2時間程度の家庭学習は最低限必要です。問題は方法です。私は【学力=学習時間×方法】と考えています。目的地と違った方向へどんなに歩いても、目的地に着くことはできません。同じように、間違った学習方法を長く行っても成果は上がりません。このような状況が続くと「こんなに頑張っているのに結果が出ないのは自分には才能がないからなのでは」と考えてしまう人がいます。ちょっと待ってください。まずは、方法を検証してみましょう。大切なのは問題を何問やったか、何時間やったかではありません。《何ができるようになったか》が大切なのです。この本には、そんな勉強をスタートする前に大切にしなければいけない視点や考え方の材料が多々紹介されています。時間の費用対効果を高めるために、一読してはどうでしょうか?

(文責: 竹腰)

